

豊かな海の資源を大切にしましょう



海洋資源づくり

特集

つくり育てる漁業

春告魚の郡来がやん衆を呼び、豊かな街を築きあげた。



森づくりは

海づくり



世界で森林伐採が進むなか、海洋生物に与える悪影響は深刻な問題となっております。元々地球の生態系は、海の水が雨となって山に降り、山の養分をたくさん含んだ水が川となって流れ、その養分を海中の微生物が食べ、それを小魚が食べ、その小魚を大きな魚が食べるというシステムになっています。

沖縄県では赤土が海に流出し、珊瑚礁が次々に死滅していると聞いています。海の家を失った海洋生物たちは、新たな環境を求め移動したり、全滅の危機にたたされている生物もあるそうです。

人間が捨てたビニール袋をウミガメがエサと間違えて飲み、消化ができなく死んでしまったり、釣り糸が口に絡みエサを取れないまま死んでしまう海鳥も少なくないのです。

留萌でも黄金岬にカニ捕りに行った人が、エサの付いた針金をそのまま捨ててしまったため、それを飲み込んだカモメが死んだそうです。森林の伐採や葉、そしてごみによる海洋汚染は留萌海岸でも既に発生しています。

その海洋資源を守る人、破壊された漁場を取り戻そうと日夜努力している人たちがいます。

旅

たつ小さな魚たち 海洋資源増大事業

▼クロソイ 体長3センチの稚魚1万匹を9月末まで育て、留萌沖に放流します。

▼マツカワ(カレイ類) 3センチになった稚魚を9月末までに500匹を育てています。

▼ヒラメ 8センチほどの稚魚3万6千匹を留萌沖に放流します。

▼ウニ 15ミリサイズの種苗40万粒を7月上旬に放流します。

▼アワビ 2万1千粒の種を7月上旬に放流します。

▼ニシン 採卵、ふ化した40万匹の稚魚のうち、10万匹を5月中旬から留萌港内三泊地区のいけすで育て、4センチから7センチになった6月に放流しました。

▼コンブ ウニの実入りを良くするために、コンブの養殖と水深の深いところにあるウニを、エサのある海藻のある浅いところに、30万粒の移植を予定しています。